

## 安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名 : アビオス専用中和液 SA-4500  
会社名 : 株式会社アスカメディカル  
住所 : 大阪市城東区関目 2 丁目 12-10  
電話 : 06-6939-3011  
FAX : 06-6939-3225  
推奨用途 : アビオス専用中和液  
使用上の制限 : 上記の用途以外には使用しないこと。使用期限：製造日より 1 年

### 2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類、GHS ラベル要素

GHS 分類

健康に対する有害性

急性毒性：経口：区分 4

皮膚腐食性及び皮膚刺激性：区分 1

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：区分 1

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：区分 1（中枢神経系、呼吸器）

水生環境有害性 短期（急性）：区分 3

（注）記載なき GHS 分類区分：区分に該当しない/分類できない

GHS ラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

飲み込むと有害

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

臓器の障害のおそれ（中枢神経系、呼吸器）

水生生物に有害

注意書き

安全対策

ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は手、顔などをよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

環境への放出を避けること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置

飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水【又はシャワー】で洗うこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

#### 貯蔵

施錠して保管すること。

容器破損のおそれがあるため、直射日光の当たる場所や高温となる場所での保管は避ける。

#### 廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名又は一般名：アンモニア水

別名：水酸化アンモニウム、安水

成分名	CAS No.	含有量 (%)	化審法番号
アンモニア水	1336-21-6	8 - 9	1-314

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。

この成分表に記載なき成分は、日本政府による GHS 分類結果一覧に記載されていません。

#### 危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

水酸化アンモニウム

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

水酸化アンモニウム

### 4. 応急措置

#### 応急措置の記述

##### 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

被災者を温め、安静にする。

直ちに医師の診察/手当てを受けること。

##### 皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

##### 眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の中に全て水が行き届くように洗浄する。

直ちに医師の診察/手当てを受けること。

##### 飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

無理に吐かせないこと。

意識のある場合はコップ 1 - 2 杯の水を飲ませる。

意識のない被災者には何も飲物を与えてはならない。

直ちに医師に連絡すること。

#### 急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

吸入：灼熱感、咳、息苦しさ、息切れ、咽頭痛

皮膚：(腐食性)発赤、重度の皮膚熱傷、痛み、水疱

眼：(腐食性)発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷

経口摂取：(腐食性)胃痙攣、腹痛、咽頭痛、嘔吐

#### 応急措置をする者の保護

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具、保護長靴などの適切な保護具を着用する。

#### 医師に対する特別な注意事項

症状に応じた治療を行う。

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

#### 適切な消火剤

霧状水、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）、乾燥砂

#### 使ってはならない消火剤

使ってはならない消火剤データなし

### 特有の危険有害性

燃焼の際に有毒な窒素酸化物、アンモニアを生成する。

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

### 消火を行う者への勧告

#### 特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

霧状水により容器を冷却する。

安全に対処できるならば、製品容器を火災危険区域から移動すること。

消火作業は、可能な限り風上から行う。

#### 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

風上から作業し、風下の人を退避させる。

漏出物に触れたり、その上を歩いたりしないこと。

### 環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

下水、排水中に流してはならない。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の物質（乾燥砂、土など）に吸収させて、容器に回収する。

多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。

回収物はラベルを貼って密閉容器に保管する。

### 二次災害の防止策

安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。

排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

（取扱者のばく露防止）

ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

（局所排気、全体換気）

排気/換気設備を設ける。

（注意事項）

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

#### 安全取扱注意事項

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

#### 接触回避

酸、強酸化性物質、金属、プラスチック、ゴムとの接触を避けること。

#### 衛生対策

- 眼、皮膚、衣類につけないこと。
- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- 取扱い後はよく手を洗う。

#### 保管

##### 安全な保管条件

- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- 涼しいところに置き、日光から遮断すること。
- 施錠して保管すること。

##### (避けるべき保管条件)

- 直射日光、高温を避けること。

##### 安全な容器包装材料

- ガラス、ポリエチレン

### 8. ばく露防止及び保護措置

#### 管理指標

管理濃度：データなし

#### 許容濃度

- 日本産業衛生学会勧告値(2017年)：25 ppm (17 mg/m<sup>3</sup>) (NH<sub>3</sub>として)
- 米国産業衛生専門家会議 (ACGIH) (2017年)：TLV-TWA 25 ppm、  
TLV-STEL 35 ppm (NH<sub>3</sub>として)

#### ばく露防止

##### 設備対策

- 密閉された装置を使用する。
- 排気/換気設備を設ける。
- 洗眼設備を設ける。
- 手洗い/洗顔設備を設ける。

##### 保護具

###### 呼吸用保護具

- 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

###### 手の保護具

- 保護手袋を着用する。推奨材質：非浸透性もしくは耐化学品ゴム

###### 眼の保護具

- 保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

###### 皮膚及び身体の保護具

- 保護衣を着用する。

### 9. 物理的及び化学的性質

#### 基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：液体

色：無色透明

臭い：強い刺激臭

臭いの閾値：5-50 ppm

融点/凝固点：- 58 °C

沸点又は初留点：38 °C

沸点範囲：データなし

可燃性(ガス、液体及び固体)：燃焼しない

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：下限 16 vol%、上限 27 vol%

引火点：燃焼しない

自然発火点：651 °C

分解温度：データなし

pH：11.5 ≤ pH

動粘性率：データなし

溶解度：水に混和する

n-オクタノール/水分配係数：データなし

蒸気圧：48 kPa(25 %, 20 °C)、8.3 kPa(32 %, 20 °C)

密度及び/又は相対密度：0.6-1.2 (空気 = 1.0) 相対ガス密度(空気=1)：データなし

粒子特性：適用外

## 10. 安定性及び反応性

### 反応性

酸と反応する。

アルミニウム、亜鉛、銅、すずなどの金属を腐食し、可燃性の水素ガスを生成する。

### 化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

### 危険有害反応可能性

酸と反応する。

アルミニウム、亜鉛、銅、すずなどの金属を腐食し、可燃性の水素ガスを生成する。

### 避けるべき条件

直射日光、高温を避けること。

### 混触危険物質

酸、金属、プラスチック、ゴム

### 危険有害な分解生成物

熱分解により以下の物質を生成する。

窒素酸化物、アンモニア

## 11. 有害性情報

### 毒性学的影響に関する情報

#### 急性毒性

##### 急性毒性（経口）

20%アンモニウム塩におけるラットのLD50として、350 mg/kg (SIDS (2008)) との報告

に基づき、区分4: CAS RN®:1336-21-6(毒性値=350mg/kg 含有率=18.52% 出典:NITE)

区分に該当しない: CAS RN®:7732-18-5(毒性値=100000mg/kg 含有率=81.48% 出典:NITE)

ATEmix=100 / (18.52% / 350mg/kg) 計算結果が1889.848812mg/kgのため、区分4に該当。

危険有害性情報:H302 飲み込むと有害

##### 急性毒性（経皮）

区分に該当しない（分類対象外）: CAS RN®:7732-18-5(含有率=81.48% 出典:NITE)

分類できない: CAS RN®:1336-21-6(含有率=18.52% 出典:NITE) 既知の成分がすべて区分に該当しない（分類対象外）のため、区分に該当しない（分類対象外）に該当。

毒性が未知の成分を18.52%含有。毒性未知成分が0.1%以上なので、区分に該当しない（分類対象外）から分類できないに変更。

##### 急性毒性（吸入:気体）

GHSの定義における液体である。

区分に該当しない（分類対象外）: CAS RN®:1336-21-6(含有率=18.52% 出典:NITE), CAS RN®:7732-18-5(含有率=81.48% 出典:NITE) GHS定義による気体ではない。

##### 急性毒性（吸入；蒸気）

急性毒性(吸入):蒸気:ppmでの計算

区分に該当しない（分類対象外）: CAS RN®:7732-18-5(含有率=81.48% 出典:NITE) 分類できない: CAS RN®:1336-21-6(含有率=18.52% 出典:NITE)

既知の成分がすべて区分に該当しない（分類対象外）のため、区分に該当しない（分類対象外）に該当。

毒性が未知の成分を18.52%含有。

毒性未知成分が0.1%以上なので、区分に該当しない（分類対象外）から分類できないに変更。

##### 急性毒性（吸入；粉じん、ミスト）

区分に該当しない（分類対象外）: CAS RN®:7732-18-5(含有率=81.48% 出典:NITE) 分類できない: CAS RN®:1336-21-6(含有率=18.52% 出典:NITE)

既知の成分がすべて区分に該当しない（分類対象外）のため、区分に該当しない（分類対象外）に該当。

毒性が未知の成分を 18.52%含有。

毒性未知成分が 0.1%以上なので、区分に該当しない（分類対象外）から分類できないに変更。

#### 局所効果

##### 皮膚腐食性及び皮膚刺激性

ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、本物質の 20 %水溶液の適用により腐食性を示したとの報告があり（SIDS（2008））、本物質は強アルカリ性のため、眼や皮膚に対して腐食性を示すとの記載がある（SIDS（2008））。なお、本物質は EU DSD 分類において「C; R34」、EU CLP 分類において「H314 Skin Corr. 1B」に分類されている。

区分に該当しない: CAS RN®: 7732-18-5 (含有率=81.48% 出典:NITE) 区分 1: CAS RN®: 1336-21-6 (含有率=18.52% 出典:NITE)

加成方式が適用できる成分からの判定:

区分 1 の成分合計が 18.52%であり、濃度限界(5%)以上のため、区分 1 に該当。

危険有害性情報:H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

##### 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

ウサギの眼に本物質 1 mg を適用した試験において刺激性がみられたとの報告(SIDS (2008)) や、ラットの眼に 28.5 %水溶液を適用した試験で、角膜白濁や混濁など回復性のない角膜障害や血管新生が認められたとの報告がある (HSDB (Accession June 2014))。また、本物質は強アルカリ性のため、眼や皮膚に対して腐食性を示すとの記載 (SIDS (2008)) や、粘膜に対して著しい刺激性を示すとの記載がある (HSDB (Access on June 2014))。

区分に該当しない: CAS RN®: 7732-18-5 (含有率=81.48% 出典:NITE)

区分 1: CAS RN®: 1336-21-6 (含有率=18.52% 出典:NITE)

加成方式が適用できる成分からの判定:

眼区分 1 の成分合計が 18.52%であり、濃度限界(3%)以上のため、区分 1 に該当。

危険有害性情報:H318 重篤な眼の損傷

##### 呼吸器感作性又は皮膚感作性

###### 呼吸器感作性

区分に該当しない: CAS RN®: 7732-18-5 (含有率=81.48% 出典:NITE)

分類できない: CAS RN®: 1336-21-6 (含有率=18.52% 出典:NITE)

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。

毒性が未知の成分を 18.52%含有。

毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

###### 皮膚感作性

モルモットを用いた Open epicutaneous 試験において、20%アンモニア水溶液を適用した結果、陰性であったとの結果がある (IUCLID (2000)) が、ガイダンスで推奨されている試験法でないことから分類に用いるには不十分なデータと判断した。

区分に該当しない: CAS RN®: 7732-18-5 (含有率=81.48% 出典:NITE)

分類できない: CAS RN®: 1336-21-6 (含有率=18.52% 出典:NITE)

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。

毒性が未知の成分を 18.52%含有。

毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

##### 生殖細胞変異原性

in vivo のデータはなく、in vitro では細菌を用いる復帰突然変異試験で陰性のデータ (SIDS (2008)) のみである。なお、in vivo ではマウスに腹腔内投与の小核試験で陽性結果が報告されている (ATSDR (2004)) が、詳細不明のため採用しなかった。

区分に該当しない: CAS RN®: 7732-18-5 (含有率=81.48% 出典:NITE)

分類できない: CAS RN®: 1336-21-6 (含有率=18.52% 出典:NITE)

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。

毒性が未知の成分を 18.52%含有。

##### 発がん性

国際機関等の発がん性分類はない。なお、個別の情報としては、ラットの飲水投与発がん性試験で、発がん性がないとの報告があるが、十分な情報ではない (SIDS (2008))。

区分に該当しない: CAS RN®: 7732-18-5 (含有率=81.48% 出典:NITE)

分類できない: CAS RN®:1336-21-6(含有率=18.52% 出典:NITE)  
危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。  
毒性が未知の成分を 18.52%含有。  
毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

#### 生殖毒性

区分に該当しない: CAS RN®:7732-18-5(含有率=81.48% 出典:NITE)  
分類できない: CAS RN®:1336-21-6(含有率=18.52% 出典:NITE)  
危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。  
毒性が未知の成分を 18.52%含有。  
毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

#### 特定標的臓器毒性

##### 特定標的臓器毒性（単回ばく露）

本物質はヒトに気道刺激性があり、気道粘膜の重度の刺激や痛みを引き起こす。また、経口経路で口、喉、胃に重度の腐食性がある（HSDB（Access on June 2014））。吸入ばく露や経皮ばく露で神経学的影響が知られており、通常、直接ばく露部位の視力障害に限定されるが、より重度のばく露では血中アンモニア濃度の上昇を引き起こし、発作、昏睡、非特異的びまん性脳障害、筋力低下、深部腱反射減少、意識消失を生じ死に至る（ATSDR（2004））。本物質を経口摂取し死亡した疫学事例で、剖検の結果、食道、胃、十二指腸に出血が見られた。家庭用アンモニア（水酸化アンモニウム）を経口摂取した事例では、食道の病変及び浮腫、急性呼吸障害が報告されている（ATSDR（2004））。作業者がタンクから溢れた本物質の高濃度（10,000ppm）にばく露された事例では、直ちに咳、嘔吐、呼吸困難、努力呼吸が現れ、ばく露6時間後に死亡した。解剖の結果、気道の著しい炎症、気管上皮の重度の剥離が報告されている（HSDB（Access on June 2014））。実験動物についてはデータが少ないが、ラットに350 mg/kgの経口経路で、鎮静、ふらつき、異常姿勢、痙攣、振戦、運動失調、衰弱、眼瞼下垂、眼球突出、流涎、努力・不規則呼吸、下痢が報告（詳細な記載なし）され（SIDS（2008））、区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。

区分に該当しない: CAS RN®:7732-18-5(含有率=81.48% 出典:NITE)  
区分1: CAS RN®:1336-21-6(含有率=18.52% 臓器=中枢神経系 出典:NITE), CAS RN®:1336-21-6(含有率=18.52% 臓器=呼吸器 出典:NITE)  
CAS RN®:1336-21-6が18.52% $\geq$ 10%のため、区分1(中枢神経系)に該当。  
CAS RN®:1336-21-6が18.52% $\geq$ 10%のため、区分1(呼吸器)に該当。

##### 特定標的臓器毒性（反復ばく露）

ヒトでは本物質慢性ばく露による影響に関して報告はない。実験動物ではラット及びモルモットにアンモニア水を90日間吸入ばく露した試験において、455 mg/m<sup>3</sup>の濃度で、呼吸困難、鼻腔の刺激がみられ、死亡例が発現した（SIDS（2008））との記述があり、呼吸器が標的臓器と考えられるが、本試験はばく露時間など試験条件の詳細が不明であり、分類に利用することができない。アンモニア水の反復投与毒性に関する知見の記述はこの他にはなく、データ不足のため分類できない。なお、旧分類は現行の分類ガイダンスではList 3又はList 外のデータにより分類された結果であった。

区分に該当しない: CAS RN®:7732-18-5(含有率=81.48% 出典:NITE)  
分類できない: CAS RN®:1336-21-6(含有率=18.52% 出典:NITE)  
危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。  
毒性が未知の成分を 18.52%含有。  
毒性未知成分が1%以上なので、区分に該当しないから分類できないに変更。

#### 誤えん有害性

動粘性率: 不明

区分に該当しない（分類対象外）: CAS RN®:7732-18-5(含有率=81.48% 出典:NITE)  
分類できない: CAS RN®:1336-21-6(含有率=18.52% 出典:NITE)  
動粘性率が不明のため、分類できないに該当。

## 12. 環境影響情報

水生環境有害性については、GHSのルールに従い下記、方式1、方式2、方式3の3種類の方法で計算し、その中で一番安全サイドのものを採用する。全ての成分にデータ又は情報が全く無い、又は評価をするのに不十分な場合は「分類できない」とする。

方式1: 3つの栄養段階(魚類、甲殻類、藻類)ごとに区分を求める。※3つの栄養段階(魚類、甲殻類、藻類)の毒性値データがそろそろ成分が2つ以上の際に実施。

方式2: 成分それぞれで3つの栄養段階のうち、成分ごとに1番強い毒性値を採用し、加算式で区分を求める。毒性値はないが区分がある成分と、加算式で求めた区分から加算法を用いて混合物の区分を求める。

方式3: 加算法のみにより混合物の区分を求める。

#### 生態毒性

##### 水生環境有害性(急性)

区分2: CAS RN®:1336-21-6(含有率=18.52% 毒性値(魚類)=なし 毒性値(甲殻類)=2.81mg/l 毒性値(藻類)=なし 出典:NITE)

区分に該当しない: CAS RN®:7732-18-5(含有率=81.48% 毒性値(魚類)=なし 毒性値(甲殻類)=なし 毒性値(藻類)=なし 出典:NITE)

方式2: 加算式

$18.52\% / (18.52\% / 2.81\text{mg/l})$

計算結果=計算値:2.81mg/l、分類区分:区分2

加算法(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が185.20%であり、濃度限界(25%)以上のため、区分3に該当。

方式3: 加算法(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が185.20%であり、濃度限界(25%)以上のため、区分3に該当。

方式1=分類できない、方式2=区分3、方式3=区分3より区分3に該当。

危険有害性情報:H402 水生生物に有害

##### 水生環境有害性(長期間)

区分に該当しない: CAS RN®:1336-21-6(含有率=18.52% 毒性値(魚類)=なし 毒性値(甲殻類)=3.47mg/l 毒性値(藻類)=なし 急速分解性=有 出典:NITE), CAS RN®:7732-18-5(含有率=81.48% 毒性値(魚類)=なし 毒性値(甲殻類)=なし 毒性値(藻類)=なし 急速分解性=無 出典:NITE)

方式3: 加算法(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が0%であり、濃度限界(25%)未満のため、区分に該当しないに該当。

方式1=分類できない、方式2=分類できない、方式3=区分に該当しないより区分に該当しないに該当。

#### 水溶解度

混和する

#### 残留性・分解性

データなし

#### 生体蓄積性

データなし

#### 土壌中の移動性

データなし

#### オゾン層破壊物質

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

分類できない: CAS RN®:1336-21-6(含有率=18.52% 出典:NITE), CAS RN®:7732-18-5(含有率=81.48% 出典:NITE)

データ不足のため分類できない。

### 13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報  
廃棄物の処理方法

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

承認された廃棄物集積場で処理する。

下水、地中、水中への廃棄を行ってはならない。

#### 汚染容器及び包装

内容物を使い切ってから、容器を廃棄すること。



## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

- 国連番号：該当しない
- 品名（国連輸送名）：該当しない
- 国連分類：該当しない
- 容器等級：該当しない
- 海洋汚染物質：該当しない

### 国内規制

- 陸上輸送情報：該当しない
- 海上輸送情報：該当しない
- 航空輸送情報：該当しない

### 特別な安全対策

- 容器の破損、漏れがないことを確かめ、衝撃、転倒、落下、破損のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
- タンク車（ローリー）等へ充填、積み下ろし時は平地に停止させ、車止めをし、接地し、タンク車の許容圧力以下の圧縮ガス又はポンプを用いて行う。
- ホースの脱着時は、ホース内の残留物の処理を完全に行う。
- ローリー、運搬船には所定の標識板、消火設備、災害防止用応急資材を備える。

### 緊急時応急措置指針番号

- 該当しない

## 15. 適用法令

- 労働安全衛生法：腐食性液体（労働安全衛生規則第 326 条）
  - 特定化学物質第 3 類物質（特定化学物質障害予防規則第 2 条第 1 項第 6 号）
  - 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 1 号、第 2 号別表 9）
  - 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号別表 9）
- 労働基準法：疾病化学物質（法第 75 条第 2 項、施行規則第 35 条別表第 1 の 2 第 4 号）
- 毒物及び劇物取締法：該当しない
- 消防法：該当しない
- 大気汚染防止法：該当しない
- 土壌汚染対策法：該当しない
- 水質汚濁防止法：有害物質（法第 2 条、施行令第 2 条、排水基準を定める省令第 1 条）
- 海洋汚染防止法：有害液体物質（Y 類物質）（施行令別表第 1）（濃度が 28 重量%以下のものに限る）
- 船舶安全法：該当しない
- 港則法：該当しない
- 航空法：該当しない
- 道路法：該当しない
- 悪臭防止法：該当しない
- 化学物質管理促進法（PRTR 法）：該当しない
- 特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律：該当しない
- 外国為替及び外国貿易法：輸出貿易管理令別表第 1 の 16 の項【HS2814. 20】

## 16. その他の情報

### 参照文献及び情報源

1. NITE-Gmiccs (Ver. 2.0.0) 収載化学物質一覧 (20220331 更新版)
2. 化学品法規制検索システム 日本ケミカルデータベース(株)
3. GHS 対応モデルラベル・モデル SDS 情報 厚生労働省
4. SIDS (2008)

#### 責任の限定について

この安全データシートは、各種の文献等に基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありません。また、作成の時点における知見によるものです。注意事項は通常の手扱いを対象としたもので、特殊な条件下で使用する場合は、その環境に応じて安全対策を講じてください。含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証もするものではありません。